

企画書

令和2年11月9日

(仮称) カーリング北見国際アリーナ建設 夢 プロジェクト (案) Ver.2.00

背景と趣旨

令和2年10月31日、北見に2カ所目のカーリング施設「アルゴグラフィックス北見カーリングホール」がオープンしました。新カーリングホールは選手を技術面や戦略面で支援する機能が備わっています。北見工大冬季スポーツ科学研究推進センターがその研究を担います。北見のカーリング施設は常呂を加えて2カ所・9シート体制になりました。

平成30年2月25日、ピョンチャン5輪カーリング女子でL S北見の日本が英国を破り銅メダルを獲得。深夜の街中をその感動が駆け巡り、「北見」が全国的に有名になり、街の新たな宝物（カーリング）が誕生したのです。

2030年・冬季オリンピック パラリンピック札幌開催の誘致が進められています。その時、ピョンチャン5輪の感動を北見の地で味わえないかと大きな願望を我が胸に秘めています。

「アルゴグラフィックス北見カーリングホール」のオープン後の次の目標は「(仮称)カーリング北見国際アリーナ」を建設して、冬季オリンピック パラリンピックのカーリング競技をこの会場で開催することです

『(仮称)カーリング北見国際アリーナ建設の夢を育み、そのイメージを見える化し、アリーナの実現に取り組み、同時にカーリング選手の皆さんを応援する』を目的に「(仮称)カーリング北見国際アリーナ建設夢プロジェクト」を立ち上げます。

(仮称)カーリング北見国際アリーナは1千人規模の観客席を有し、北見の観光開発や石北線の増客再生などにまで範囲を広げ、また2030年の北海道新幹線札幌延伸を見据えたものです。

本プロジェクトはスタートアップ的役割を担い、今後、発展的に実行変身をする。

(仮称) カーリング北見国際アリーナ 夢 プロジェクトの立ち上げ

- (1) 名称： (仮称)カーリング北見国際アリーナ建設夢プロジェクト
- (2) 組織名称： (仮称)カーリング北見国際アリーナ建設夢クラブ
- (3) 目的： (仮称)カーリング北見国際アリーナ建設の夢を育み、そのイメージを見える化し、アリーナの実現に向かって取り組み、同時にカーリング選手の皆さんを応援する
- (4) 当面の目標：
 - 1) (仮称)カーリング北見国際アリーナ建設構想の推進
 - 2) 2030年・冬季オリンピック パラリンピック札幌開催の誘致支援
- (6) 事業：
 - A) L S北見や他の競技チームへの応援とその運営支援
 - B) 内外の競技場や大会の情報の収集
 - C) 既存施設の企画や年間運営情報の収集
 - D) (仮称)カーリング北見国際アリーナ建設に関する調査研究
 - E) 競技場のパース図（ラフスケッチ）を完成し、公開する
 - F) まちづくりや観光開発とアリーナの関係についての情報交換
 - G) 行政や諸機関への提言
 - H) 講演会やフォーラムを開催し、当プロジェクトの啓蒙

企画発信

〒090-0022

北見市北二条東2丁目6番地1 サンライズ北二条団地 66

アイティデザイン研究所

逢坂信治

Tel/Fax 0157-31-2854 E-mail shin.oosaka@nifty.com